4 東北地方のマダニ類における紅斑熱群リケッチアの保有状況調査 ○藤田博己, 渡辺百合子 (大原研究所), 高田伸弘 (福井医大) Survey of spotted fever group rickettsiae in ticks of the northern part of Honshu, Japan. Hiromi Fujita, Yuriiko Watanabe (Ohara Res.Lab.) and Nobuhiro Takada (Fukui Med.Univ.)

われわれは、マダニ類における紅斑熱群リケッチアの保有状況を、培養細胞を用いた分離によって検索中であるが、東北地方においては、2002年9月現在で、2属4種のマダニ類から合計29株を分離した。すなわち青森、秋田および福島県のヤマトマダニから合計19株、岩手県のヒトツトゲマダニから1株、青森県のシュルツェマダニから1株、福島県のパタトゲチマダニから8株である。マダニ属3種の分離株は、血清学的に10タイプに型別された。このタイプのリケッチアで、北海道のシュルツェマダニと九州のヒトツトゲマダニの分離株については、16S rDNAとクエン酸合成酵素DNA(gltA)の解析から、病原性の *Rickettsia helvetica* に一致するものが見つかったので、今後は東北地方の分離株についても検索を要する。福島県のパタトゲチマダニからの分離株は、血清型別によると日本紅斑熱病原体 *R. japonica* の近縁種と推定された。同タイプのリケッチアは東北地方以外の各地からも多数分離されていて、パタトゲチマダニ両性系の特異種と推測されている。

5 青森県東部および岩手県北部で飼育されているイヌおよびネコにみられた外部寄生虫について ○八田岳士, 北川純一, 坂口圭介, 増山浩一, 青木美樹子 (岩手大), 伊藤直之 (かもめ獣医科医院), 板垣 匡 (岩手大) Ticks and other epizootic parasite detected from domestic dogs and cats in Aomori and Iwate prefecture, Japan. Takeshi Hatta, Junichi Kitagawa, Keisuke Sakaguchi, Koichi Masuyama, Mikiko Aoki (Iwate Univ.), Naoyuki Ito (Kamome Vet. Clinic), Tadashi Itagaki (Iwate Univ.)

2000年6月から12月の期間に青森県内の動物病院に来院したイヌおよびネコについて外部寄生虫がみとめられた症例に着目し、疫学的調査を行った。今回調査した全94例のうち、マダニ類の寄生が47例にみられ、そのうちイヌ(C)が41例、ネコ(F)が6例であった。一方94例中43例(C; 16例、F; 27例)で小型ダニ類が検出された他、イヌノミ *Ctenocephalides canis* (C; 2例)、イヌハジラミ *Trichodectes canis* (C; 2例)が検出された。検出されたマダニ類47例中15例がマダニ属で、ヤマトマダニ *Ixodes ovatus* (C; 9例、F; 1例)、シュルツェマダニ *I. persulcatus* (C; 1例、F; 1例)、タヌキマダニ *I. tanuki* (C; 1例)、*Ixodes* spp. 幼ダニ(F; 2例)であった。一方32例はチマダニ属で、キチマダニ *Haemaphysalis flava* (C; 8例)、ヤマトチマダニ *H. japonica* (C; 6例)、ツリガネチマダニ *H. campanulata* (C; 3例、F; 1例)、パタトゲチマダニ *H. longicornis* (C; 3例)、*Haemaphysalis* spp. 幼ダニ(C; 10例、F; 1例)であった。また小型ダニ類としてミミヒゼンダニ *Otodectes cynotis* (C; 6例、F; 11例)、ヒゼンダニ *Sarcoptes scabiei* (C; 7例)、ショウセンコウヒゼンダニ *Notoedres cati* (F; 12例)、キュウセンヒゼンダニ *Psoroptes* sp. (C; 1例)、ツメダニ *Cheyletiella* spp. (C; 2例、F; 4例)が検出された。これらの成績から、獣医臨床の現場において外部寄生虫による咬傷や皮膚炎のみならず、それらによって媒介される感染症にも留意して、治療や畜主への指導を行っていく事が必要であると考えられた。